

研究に教育現場での経験に海外研修 やりたいこと全てを実現できた 忙しくも充実の2年間でした

言語系教科マネジメントコース(英語)※ 2025年3月修了 村上 奈菜葉さん

※2027年度から、コース名が言語系コース(国語・英語)に変更となります

兵教大 → 兵教大大学院 → 公立小学校教諭

兵教大に入学した理由

「一日も早く教壇に立ちたい」という思いと、「大学院で専門性をさらに高めたい」という思いの間で揺れている時、ゼミの指導教員である近藤暁子先生から「せっかく研究したいテーマがあるのだから、一緒にさらに探究していこう」と声をかけていただきました。その言葉が大きな後押しとなり、進学を決意しました。進学するからには、自信を持って教壇に立てるだけの力量を身に付けること、学部時代にコロナ禍の影響で参加できなかった海外研修プログラムに挑戦すること、そしてスクールサポーターとして子どもたちと関わり続けること—この3つを2年間で実現することを目標に掲げ、進学しました。

ココが良かった!

私の代の英語コースは5人と少人数であったからこそ、教授との距離が近く、一人一人の研究に丁寧に向き合っていた環境が整っていました。自分の間とじっくり向き合いながら、関心のあるテーマに妥協することなく挑戦できたことは、大きな財産です。また、同期には現職教員も在籍しており、理論だけでなく実践の視点から意見を交わすことができました。現場での経験を

もとにした考えに触れるたびに、自分にはない視点に気付かされ、学びがより一層深まりました。さらに、夏季休業期間中にはいくつかの海外研修にも参加しました。1年次にはフィンランド、2年次には台湾とラトビアを訪問し、教育現場の視察や、教育学を専攻する学生との交流を行いました。国や文化が異なっても、教育に対して真摯な思いを持つ同世代の学生と出会えたことは、かけがえのない経験です。

実感!自分の成長

大学院では、1年次に4週間、2年次に6週間の実習に取り組み、自身の研究を実践の中で検証しました。私の研

究は、小学校外国語において動画を活用し、授業内外を連携させたスピーキング学習の効果を探るものです。子ども一人一人が繰り返し発話できる環境を整えることで、意欲面と技能面の双方にどのような変化が生まれるのかを追究してきました。実習前と比べ、子どもたちの発話意欲と英文の定着度はいずれも向上しました。自ら英語を使おうとする姿が増え、研究の成果を実感することができました。また、授業のない期間には加東市内の小学校でスクールサポーターとして活動し、2年間を通して継続的に子どもたちと関わり続けました。研究と実践を行き来する中で、目指す教員像もより明確になりました。

進学を考えている人へのメッセージ

学部卒業後、就職か進学かで悩む人は多いと思います。私自身も迷いましたが、大学院で過ごした2年間があったからこそ、さまざまな学校現場を体験し、海外で学ぶ機会にも恵まれました。そこで得た経験や出会いは、今の自分を支える大きな財産となっています。長い人生の中の2年間です。挑戦してみたいことや深めたいテーマがあるなら、その思いに正直に、一歩踏み出してみるのもよい選択だと思います。



Profile

兵庫教育大学在学中に教員採用試験に合格し、2023年3月に大学を卒業後、採用を延期する特別制度を活用して4月に同大学院に入学。研究の傍ら、スクールサポーターとして加東市内の小学校で活動したほか、海外研修プログラムにも参加。25年3月に修了し兵庫県太子町の小学校に着任、2年生の担任を務めた。